View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

看護基礎教育課程における GID 学生受け入れに関する調査

○藤井徹也*　篠崎惠美子　（聖隷クリストファー大学看護学部）
中山　和弘（聖路加看護大学）
玉腰　浩二（名古屋大学医学部保健学科）

【目的】近年、性同一性障害（以下 GID とする）の若年層の増加が報告されている。今回、実際に看護教育における GID 学生の受け入れの実態を調査したので報告する。

【方法】対象：看護系専門学校、短大、大学の基礎看護技術担当者 701 名（1 校 1 名）。回答が得られた 261 名（回収率 38.1%）の内、GID 学生を受け入れた経験がある 23 名を分析対象とした。調査方法：無記名自記式質問紙にて郵送法で実施した。質問項目は「GID の文献等からの情報を得た経験の有無」「GID の教育（研修）の有無」「受け入れた GID 学生のタイプ」「受け入れに生じた問題点」「問題点に関する解決策」等である。調査期間：平成 23 年 2～3 月。データ分析：各項目の記述統計、タイプ別と各項目間の関連は χ^2 検定を用いた。自由記載は類似内容を研究者間でまとめた。倫理的配慮：筆頭発表者の所属機関の倫理審査委員会の承認を受けた。対象者には、研究の趣旨、参加の自由、匿名性の保障について書面を用いて説明し、回答をもって同意とした。

【結果】GID の情報収集を行った者が 16 名、研修等の教育を受けた者が 5 名であった。GID 学生受け入れ人数は、1 名が 20 校、2 名が 3 校であった。GID 学生のタイプは、生物学的性別が男性で自己認識の性別が女性の場合が 9 名、その逆の場合が 17 名であった。教育上生じた問題点は「ゼミ合宿などの宿泊を伴う実習や学内行事」が 21 名（91.3%）と最も多く、次いで「服装」「使用する更衣室」が 10 名（43.5%）であった。「ゼミ合宿などの宿泊を伴う実習や学内行事」の問題点の解決策は、全て「希望する性での参加」であった。基礎看護技術演習で問題が生じた項目は「全身清拭」が 12 名（52.2%）で最も多かった。また「演習時の展開で GID 学生の配慮を行うことで他の学生との平等性に影響を与えた」との意見がみられた。臨地実習では、19 名（82.6%）が「影響がなかった」と回答した。受け持ち患者に「GID 学生あること伝えた」が 2 名（8.7%）であり、その内 1 名は学校の対応についても伝えていたが、「患者間で噂になっている」との報告を臨床指導者から受けていた。17 名（73.9%）が「他の学生へ影響がなかった」と回答した。GID タイプ別と各項目間に関連は認められなかった。

【考察】今回の結果から、GID 学生の受け入れに伴う教育上の問題点は、各解決策を用いて対処されていた。7 割が他の学生への影響が無かったとの回答であったが、演習時の展開において平等性に影響があったとの回答もみられており、GID 学生の受け入れに際し、他の学生への影響を最小限にする対応も必要である。

【今後の課題】本研究の目的は GID 学生受け入れに関する現状や共に在籍する学生への影響、臨地実習における受け持ち対象者への影響と対応について明確にし、教育指針を作成することが最終的な目的である。したがって、次のステップとして「基礎看護技術演習における GID 学生の受け入れに関する教員の葛藤と対応」を把握することが課題である。

【発表状況】　第 37 回日本看護研究学会学術集会にて発表予定である。